



上空から見た沖縄陸軍病院南風原壕群(黄金森)

南風原町の戦跡

Battle Sites in Haeburu Town

今なお残る戦争の傷跡

南風原には、映画「ひめゆりの塔」の舞台となった陸軍病院壕をはじめ、沖縄戦の証である戦跡や慰霊碑が各字に点在しています。

悲慘な戦争の「記憶の継承」と、「恒久平和」への願いを込め、南風原町では戦跡を「平和学習」の場として活用しています。

Scars of War Still Remain

Along with the Army Hospital Bunker which served as the site for filming “Himeyuri-no-To (Tower of the Lilies),” Haeburu Town is interspersed with battle sites and memorial monuments that serve as witness to the Battle of Okinawa.

Haeburu Town actively uses these battle sites as places for “peace studies” to pass on the memories of what happened during that terrible war and pray for “eternal peace.”

2 第32軍司令部 津嘉山壕群

第32軍が津嘉山に構築した総延長約2,000mの人工の司令部壕。およそ3千人もの兵士らが配属され、16人のひめゆり学徒も動員されていました。

1944(昭和19)年夏頃、陣地構築専門の野戦構築部が中心となり、南部の住民を徴用して構築。同年の米軍による「十・十空襲」後、第32軍は新たに首里城地下に司令部壕を構築して、作戦の指揮の中樞は首里へと移されたため、津嘉山壕群には、経理部・兵器部・法務部・軍医部の一部が配備されました。



南風原平和ガイドの会による20号案内の様子



20号壕入り口



24号壕入り口跡(現在内部は落盤状態)

1 沖縄陸軍病院 南風原壕群

南風原町には黄金森(こがねもり)とよばれる小高い森があります。日本軍は沖縄戦に備え、黄金森に沖縄陸軍病院壕群を構築しました。院長以下、軍医・看護婦・衛生兵・ひめゆり学徒らがここで傷病兵の治療に当たりました。

南風原町は沖縄戦の記憶を伝えるために、1990年に沖縄陸軍病院南風原壕群を文化財に指定し、陸軍病院壕20号を一般公開しています。日本全国で初めて第二次世界大戦の戦争遺跡を文化財に指定しました。



3 ナゲーラ壕【第62師団(石部隊) 野戦病院壕】

新川に構築された全長約200～300mほどの人工の野戦病院壕として手術室・薬品室・商務室・看護婦や将校の控室・患者室が設置され、看護のために首里高等女学校のずいせん学徒と、沖縄昭和高等女学校のでいご学徒が動員されました。

現在、壕は沖縄自動車道那覇インターチェンジ料金所周辺に一部残っています。

南風原に配備された主な部隊

1944(昭和19)年夏以降に配備された部隊



悲風の丘(黄金森)



大東亜戦争戦没者の慰霊塔(兼城)



弾痕(津嘉山の塀)

物量作戦で挑んできた連合軍は、鉄砲弾を「雨」のように降らせました。その弾痕は、津嘉山の民家の塀や山川の水タンクの壁(現在は南風原文化センターで常設展示中)に、その痕跡が生々しく残っており。砲弾の威力を見せつけています。



イーチキの御嶽(現津嘉山小学校体育館隣)

戦前、天皇が教育の基本精神を示す教育勅語が国民に求められました。琉球古来より神聖な信仰の場としての御嶽にも鳥居が設置され御嶽は神社化されました。戦時中は戦勝祈願や出征兵の壮行会を行う場となり、国家神道の浸透に利用されました。

「慰霊祈和の塔」と「町民平和の礎刻銘板」

「慰霊祈和の塔」は戦死した兵士や住民をまつる忠魂碑として1966年に建立。

2010年に沖縄戦を含む15年戦争で犠牲になった南風原村(当時)出身者4,481人を刻銘する「南風原町平和の礎」の建立に伴い「慰霊祈和の塔」も改修されました。礎には犠牲となった南風原町民を各字ごとに刻印しています。



南風原町電子図書館 電子書籍

『南風原町の戦争関連資料』が電子書籍にて閲覧できます。



書籍に関するお問い合わせ
南風原文化センター
☎ 098-889-7399